

平成 28 年度事務事業評価表(一般事業・継続)

No. 399

事務事業名	姉妹都市交流事業(仙北市・伊丹市・飯南町)	
基本目標	010402	人を育むまち
政策		国際・地域間交流の推進
施策		地域間交流の推進
関連施策		
事業類型	4	ソフト事業(任意)
個別計画		
重点事業	平成29年度重点事業	

作成日	平成 28 年 9 月 30 日		
部局名	商工観光部		
課名	観光振興課		
課長名	杉野 幸夫	内線	471
担当者名	田中 勝美	内線	242

会計	一般会計		
款	2	総務費	
項	1	総務管理費	
目	6	企画費	
事業コード	040100	姉妹都市親善事業	

【PLAN(計画)】

対象(者)	仙北市・伊丹市・飯南町及び大村市民、大村市姉妹都市親善協会		
意図	姉妹都市、友好交流都市間の人的交流や経済・文化交流を活性化させる。		
事業概要	姉妹都市協定を昭和54年に仙北市(角館町)、昭和55年に伊丹市と締結した。5年毎の姉妹都市締結記念事業を市と姉妹都市親善協会の共催で実施。毎年、5月に伊丹市で開催されている「緑化フェア」に物産振興協会が参加し、6月に大村市で開催される「花菖蒲まつり」に仙北市から物産展を出店するなど、経済交流を図っている。また、平成27年に友好交流都市協定を締結した飯南町とは、「おおむら夏越まつり」、青少年親善交流(飯南町を訪問)を実施し、交流を深めている。		
事業期間	昭和 54 年度 ~ 平成	年度	実施方法 直営
根拠法令、要綱等	「伊丹市・大村市姉妹都市提携に関する協定」「姉妹都市提携に関する協定書」、大村市姉妹都市親善事業費補助金交付要綱		
国・県補助事業に係る本市単独施策	無		

【DO(実施)】

指標名(上段:名称/下段:算定式等)		単位	25年度	26年度	27年度	28年度	備考
活動指標	① 伊丹市・飯南町(26年度~)からの参加者数	計画値	45	30	80	71	
		実績値	43	126	157		
	参加対象行事(緑化フェア、伊丹市35周年、味覚の会)	達成度	95.6%	420.0%	196.3%		
		計画値	35	40	4	25	
成果指標	② 仙北市からの参加者数	実績値	8	40	4		
		達成度	22.9%	100.0%	100.0%		
	① 伊丹市・飯南町(26年度~)相互訪問参加者・関係者・協力者数	計画値	50	70	500	71	
		実績値	170	199	549		
② 仙北市相互訪問参加者・関係者・協力者数	達成度	340.0%	284.3%	109.8%			
	計画値	40	330	6	27		
	実績値	9	363	6			
	達成度	22.5%	110.0%	100.0%			

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
① 事業費(千円)	2,309	2,534	2,550	3,282	3,591	3,702	3,602	0
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他								
一般財源	2,309	2,534	2,550	3,282	3,591	3,702	3,602	
② 人件費(千円)	1,717	2,053	2,344	2,083	事業内容	事業内容	事業内容	備考
職員人数(人)	0.21	0.25	0.30	0.27	・姉妹都市交流事業	・姉妹都市交流事業	・姉妹都市交流事業	
時間外勤務(時間)	24	82	114	60	・濱田謙吾少年銅像建立30周年記念式典・一般ツアー(仙北市)	・戊辰戦争150周年行事(仙北市)	・姉妹都市提携40周年記念式典(仙北市)	
嘱託等人数(人)						・戊辰戦争150周年イベント(大村市)		
フルコスト(①+②千円)	4,026	4,587	4,894	5,365				

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK(評価)】

<b>事業の進捗状況</b> 昨年度の評価から、どのような取組をしましたか(昨年度の【ACTION】の改善・改革の進捗等)	平成28年1月に飯南町へ青少年交流ツアーを実施。平成28年度の主な活動としては、5月にいたみ緑化フェアへの参加交流、6月に大村公園花菖蒲まつりにおける仙北市角館物産展及び濱田謹吾少年銅像建立30周年記念事業を開催、8月に飯南町親善訪問団の大村夏越まつりへの参加を実施した。
<b>事業が抱える問題・課題等</b>	姉妹都市親善協会の会員数が減少傾向にあるが、それを補うだけの新規会員の増加は困難な状況である。伊丹・仙北両市、飯南町との友好親善をさらに深めるためには、青少年交流など、新規交流事業を検討することが重要である。

妥当性	【必要性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	姉妹都市・友好交流都市との交流は、教育・文化・経済等自発的な市民中心の交流を目指しており、行政として、5年毎の記念式典の開催や姉妹都市親善協会を中心とした市民交流事業を引き続き推進していくのは妥当である。						
有効性	【市の関与】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	大村市姉妹都市親善協会等の民間団体における交流を推進するため、記念式典や各種交流事業への市の関与は妥当である。						
効率性	【事業成果】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	5年毎の記念式典や、毎年行っている各種交流事業を、市が実施、または共催することは、市民交流促進の手段として有効である。平成28年度は、濱田謹吾少年銅像建立30周年記念事業を開催し、カツルミ・おおむら室内合奏団の出演により内容の充実を図った。また夏越まつりに飯南町から親善訪問団が参加し、親善交流を図った。						
効率性	【施策貢献度】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	地域文化、教育、経済等の向上、発展のための手段として有効であり、必要な事業である。						
効率性	【コスト】	削減の余地なし		削減の余地あり		該当なし	
	報酬及び旅費は、必要最小限の予算であるため、見直しの余地はない。						
効率性	【負担割合】	見直しの余地なし		見直しの余地あり		該当なし	
	姉妹都市親善協会への補助金については、平成15年度から見直しを継続し、平成19年度さらに見直しを図り、コストの削減に努めてきているが、会員数の減少に伴い会費収入が減少する中で、現在の交流事業を維持するためには、増額の検討も必要である。						

※事業類型が1～3に該当する事業については妥当性及び有効性の評価は記入しておりません。

【ACTION(改善・改革)】

今後の方向性	拡充	
--------	----	--

<b>内容</b> 今後の方向性のもとで、どのような取組をするか(課題や問題点等に対する取組など)	姉妹都市、友好交流都市との交流を継続的に深めるため、青少年等の交流を推進していく。また、物産振興協会等の関係団体と密な連携を図る一方、新規会員の加入促進にも努めていく。平成29年度は、濱田謹吾少年銅像建立30周年記念式典の日程にあわせて、大村市民が姉妹都市である仙北市(角館町)を知るきっかけとなるよう、観光交流ツアーを企画・募集し、実施する。また、伊丹市及び飯南町との新たな交流事業を検討・企画していく。
<b>効果</b> 事業の改善・改革によって期待される効果は何か	

1次評価	今後の方向性	担当者意見のとおり		2次評価	対象外	今後の方向性
	終期設定				終期設定	
	意見等			内容	重点事業として、市長以下で構成する「大村市都市経営戦略会議」において、審査の上採択されたため、2次評価は省略。	

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。